

平成24年度予算要求に係る新規事業採択時評価

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：三浦 真紀

事業の概要

事業名	一般国道56号 窪川佐賀道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 四国地方整備局
起終点	自：高知県高岡郡四万十町平串 至：高知県幡多郡黒潮町佐賀	延長	11.2km		

事業概要
窪川佐賀道路は、四国横断自動車道の一部を構成する高岡郡四万十町平串から幡多郡黒潮町佐賀に至る延長11.2kmの自動車専用道路である。(四国横断自動車道は徳島県阿南市から愛媛県大洲市に至る延長約440kmの高規格幹線道路であり、これまでに約277kmが供用済み)

事業の目的、必要性
当該区間の整備により、東南海・南海地震等の災害時における緊急輸送道路が確保されるとともに、第三次医療施設までの速達性の向上や、地域産業(水産業)の活性化等が図られる。

全体事業費：約370億円 計画交通量：約6,800台/日



関係する地方公共団体等の意見
【高知県知事】・予算化に同意
・南海地震への備えとして、救急救命や緊急輸送及び地域住民の生活を支える基盤として窪川佐賀道路の整備促進が必要。

学識経験者等の第三者委員会の意見
・新規事業化については妥当である。
・防災上のニーズや最新の技術を踏まえ、防災面で使いやすく、コストのかからない道路構造と運用を目指し、最大限の工夫に努めること。

事業採択の前提条件
費用対便益：便益が費用を上回っている
手続きの完了：都市計画決定手続き完了(平成16年12月7日)

事業評価結果

費用対便益	B/C	1.0	総費用：259億円 (事業費：244億円 維持管理費：15億円)	総便益：265億円 (走行時間短縮便益：213億円 走行費用減少便益：40億円 交通事故減少便益：12億円)	基準年 平成23年
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=0.9 (交通量 -10%)	B/C=1.1 (交通量 +10%)	
		事業費変動	B/C=0.9 (事業費 +10%)	B/C=1.1 (事業費 -10%)	
	事業期間変動	B/C=0.9 (事業期間 +20%)	B/C=1.1 (事業期間 -20%)		

事業の影響	評価項目	評価	根拠
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	-
事故対策		○	・交通を分散させることにより事故件数の減少を図る事業である。 (古市町交差点、古市町南交差点) 【死傷事故率512件/億台キロ(H18~H21平均値)】 死傷事故率比(県内平均比)9.1倍 全国平均(H20) 79.4件/億台キロ(県道以上) 高知県平均(H20) 56.5件/億台キロ(県道以上)
歩行空間		○	・当該区間は、通学路にも指定されているものの、幅員2m未満或いは歩道未設置区間も存在。当事業により、通過交通や大型車交通が転換され、歩行者・自転車等交通弱者への安全性が向上する。
社会全体への影響	住民生活	○	・第三次医療施設(高知赤十字病院等)への速達性が向上。 【第三次医療施設60分圏内の人口(四万十町及び黒潮町)】 【現況】1.8千人(5%)→【既事業完了時】9.2千人(27%)→【整備後】9.4千人(28%)
	地域経済	○	・線形不良箇所の回避により、基幹産業である水産業において運搬時の揺れが原因となる鮮度低下を解消。
	災害	◎	・東南海・南海地震において、落石や法面崩壊等の災害の危険性が高い土砂災害危険箇所を回避し、災害時に機能する第一次緊急輸送道路を確保。
	環境	-	
事業実施環境	地域社会	○	・四万十町と黒潮町間の線形不良箇所や急勾配箇所を回避することにより、所要時間が短縮され、県都高知市とのアクセス性が向上し、交流圏の拡大が期待される。
		○	・平成16年12月7日付 都市計画決定済み。 ・高知県知事や黒潮町長、四国横断自動車道高知県建設促進期成会等より積極的な要望活動が行われており、「命の道」として地元の期待は大きい。

採択の理由

費用便益比が1.0と、便益が費用を上回るとともに、都市計画手続きが完了し、事業採択の前提条件が確認できる。また、災害時における緊急輸送道路の確保や、第三次医療施設への速達性が向上されるなど事業効果が高いと判断できる。
以上より、本事業を平成24年度予算要求の新規事業箇所として要求する。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

平成24年度予算要求に係る新規事業採択時評価(防災機能の評価)

担当課:道路局 国道・防災課
担当課長名:三浦 真紀

1. 事業の概要

事業名	一般国道56号 窪川佐賀道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 四国地方整備局
起終点	高知県高岡郡四万十町平串 ～高知県幡多郡黒潮町佐賀	延長	11.2km		
事業概要	・四国横断自動車道は、徳島県阿南市から愛媛県大洲市を結ぶ総延長約440kmの高規格道路であり、これまでに約277kmが供用済みである。 ・窪川佐賀道路は、四国横断自動車道の一部を構成する道路で四万十町と黒潮町間を連絡し、今後30年以内に60%で発生が予想されている東南海・南海地震による被害発生時の救助・救援活動の支援や緊急物資の輸送、孤立地域の解消等、広域的防災に資する道路ネットワークの強化に資する事業であり、あわせて第三次医療施設までの到達性向上や、四国西南地域の地域振興、新たなまちづくりの骨格をなす事業である。				
目的					
事業費	約370億円	3便益B/C	1.0		

2. 必要性の評価

(1) 課題の整理

評価項目	当該事業地域の課題・上位計画等	
防災・災害時の救助活動等	<p>【 i 】緊急輸送物資の円滑な輸送の確保 ・東南海・南海地震(今後30年で60%発生確率)に伴う津波浸水により現道(国道56号)が寸断 ・窪川IC～佐賀IC間の現道は土砂災害危険箇所^{※1}が18箇所^{※2}と多く、地震時の落石、土砂崩れ等により、救助・救援活動の拠点施設への連絡が途絶 ※1 土砂災害危険箇所は現道に影響があると考える土砂流危険渓流を対象としている ※2 片坂バイパス区間を除く</p> <p>【 ii 】減災対策への取り組み ・黒潮町佐賀地区～大分地区は津波浸水の恐れがあるが、当該地区は避難施設が僅少</p>	<p>※四国圏広域地方計画 「四国圏は、地形的特性や台風常襲地帯に位置していることなどから、毎年のように水害、土砂災害、高潮災害等が発生しているとともに、近い将来、東南海・南海地震とこれによる津波の発生が想定されており、これらの災害に対応しうる防災力の向上が急務となっている。」</p> <p>※高速道路のあり方検討有識者委員会・緊急提言 「広域的な幹線道路ネットワークについては、地域の孤立化や多重性の欠如など災害面からの弱点を再点検し、その克服に向けて、ミッシングリンクの解消や隘路区間の改良など効果的な手法を選択し、緊急性の高い箇所から重点的に強化を行う必要がある。」</p>
住民生活	<p>【 i 】救急医療施設への到達性の向上 ・沿線の三次救急医療施設は高知市のみであり、高次医療施設への速やかな搬送ルートが必要不可欠</p> <p>【 ii 】他の交通機関への利便性の向上 ・沿線地域から広域交通拠点である高知龍馬空港等への時間距離が長く、連絡性向上が課題</p>	<p>※四国圏広域地方計画 「一部の中山間地域等では婦人課医や小児科医が地域に存在しないといった状況も生じてきており、医療サービス、公共交通サービスの維持・確保が困難となってきたり、圏域内において格差が生じてきている。」</p> <p>「交通ネットワーク基盤の強化や他圏域へのアクセス性の向上等を通じて、さらなる交流の活発化を推進する取組を重点的に進めることが重要である。」</p>
地域社会 地域経済	<p>【 i 】周辺市町村との連携の強化 ・四万十町～黒潮町間の現道区間は、津波浸水区間に加え、線形不良箇所(57箇所^{※3})、急勾配箇所(13箇所^{※3})、交通事故危険箇所(2箇所^{※3})が存在し、地域間連携に支障をきたしている ※四万十町役場～黒潮町役場間で算出 ※片坂バイパス区間の現道も除く数値</p> <p>【 ii 】産業拠点の分断防止 ・四国西南地域は水産業が基幹産業であるが、安定的な供給ができなくなることや線形不良箇所等による運搬時の揺れが鮮度が低下につながり、水産物市場間の競争力が低下</p>	<p>※四国圏広域地方計画 「四国圏が自立し持続的に発展していくためには、交流人口を増やすとともに、住みやすい、住みたくな地域とすることが重要であり、そのためには、圏域の活力や魅力を高め、地域力を向上させる必要がある」</p> <p>「四国が一体となって圏域内の結びつきを強化し、他圏域や国内外とも交流を促進しないと活力向上は望めない」</p> <p>※高速道路のあり方検討有識者委員会・緊急提言 「主要な市街地や交通拠点と高速道路のアクセス強化、簡易なICの増設等による地域との連絡強化などのネットワーク機能の向上」</p>
その他	-	

(2) 事業の必要性

・東南海・南海地震における緊急輸送道路の確保、地域産業(水産業)の活性化の支援、平常時も含めた救急搬送のための到達性の確保といった様々な課題に対応するため、事業の必要性があるものと評価する。

3. 有効性の評価

(1) ネットワーク上のリンクとしての評価

①主要都市・拠点間の防災機能の向上					
区間		リンクの評価		効果	評価
		現状(整備前)	(目標)整備後		
須崎市(重要港湾)	四万十市(主要都市)	D	(B) B	・現道は、津波浸水区域(土砂崩落)が存在し、近傍の迂回路も脆弱であり災害危険性が高い(Dランク) ・本道路は、須崎市～四万十市間の最短時間経路となり、災害による通行止めが想定されないことから、当該リンクの災害危険性の低いBランクに改善され、地域の孤立も解消。	◎

②ネットワーク全体の防災機能の向上				
リンクの評価			効果	評価
弱点度(整備前)	弱点度(整備後)	改善度		
当該リンクが遮断され不通(∞)	0.4	当該リンクの整備により不通が解消(∞)	当該リンクの整備により、須崎市から四万十市間の災害時の不通が解消することにより、ネットワーク全体の防災機能向上。	◎

(2) 当該事業としての評価

評価項目	事業による効果	評価
防災・災害時の救助活動等	<p>【 i 】緊急輸送物資の円滑な輸送の確保 ・救援物資輸送の拠点となる須崎港～黒潮町間の連絡時間を短縮。 (須崎市～四万十市:83分→65分(18分短縮)、うち当該事業:83分→79分(4分短縮)) (須崎港～黒潮町役場:71分→53分(18分短縮)、うち当該事業:71分→67分(4分短縮)) ・東南海・南海地震において、落石や法面崩壊等の災害の危険性が高い土砂災害危険箇所を回避し、災害時に機能を第1次緊急輸送路を確保。</p> <p>【 ii 】減災対策への取り組み ・津波の影響を受けない位置に計画しており、黒潮町佐賀地区において、避難路や避難場所としての活用が可能(孤立人口:2.5千人減少)</p>	◎
住民生活	<p>【 i 】救急医療施設への到達性の向上 ・負傷者受け入れの拠点となる高知赤十字病院への救急搬送の到達性が向上 (黒潮町～高知赤十字病院:74分→58分(16分短縮)、うち当該事業:60分→58分(2分短縮)) (四万十町～黒潮町の3次救急医療施設60分圏域内人口:1,800人(カバー率5%)→9,400人(カバー率28%、7,600人増加))</p> <p>【 ii 】他の交通機関への利便性の向上 ・黒潮町から広域交通拠点である高知龍馬空港への時間距離が短縮し、連絡性が向上</p>	◎
地域経済 地域社会	<p>【 i 】周辺市町村との連携の強化 ・高速道路が連続するとともに、線形不良箇所(30箇所)、急勾配箇所(12箇所)、交通事故危険箇所(2箇所)などを回避でき、所要時間短縮も図れることから、各地域の広域的な連携に貢献</p> <p>【 ii 】産業拠点の分断防止 ・黒潮町から高知県の経済中心地である高知市への安定的な供給が可能となることや連絡時間の短縮、定時性が確保され、産業に必要な流通の強化が期待される (須崎市～四万十市:83分→65分(18分短縮)、うち当該事業:83分→79分(4分短縮)) (黒潮町役場～窪川IC(四万十町):40分→32分(8分短縮)、うち当該事業:40分→36分(4分短縮))</p>	◎
その他	-	

(3) 事業の有効性

・当該事業の実施により、ネットワーク上のリンクの評価がDランク→Bランクに改善するとともに、不通リンクの解消によりネットワーク全体の防災機能が強化される。
 ・地震時の救助・救援活動の拠点施設への分断解消、到達性の向上による救急搬送の改善(三次救急医療施設60分圏域人口が7.6千人増)や、線形不良などの解消による地域間の連携が促進されるなど、有効性の高い事業と評価する。

4. 事業実施環境・第三者意見

事業実施環境	<ul style="list-style-type: none">・平成16年12月7日付 都市計画決定済み。・高知県知事や黒潮町長、四国横断自動車道高知県建設促進期成会等より積極的な要望活動が行われており、「命の道」として地元の期待は大きい。
--------	--

高知県	当該区間の新規事業化と事業推進を強く希望します。
社会資本整備審議会 道路分科会 事業評価部会	「新規事業化については妥当である。」との意見を頂いた。
社会資本整備審議会 地方小委員会	「新規事業化については妥当である。」との意見を頂いた。

5. 対応方針

・当該事業により、高知県西南地域のネットワークが強化され、須崎市～四万十市における幹線道路の信頼性や速達性が向上することや、緊急輸送等の円滑化が可能となり、迅速な復旧活動や被災地域の復興を支援すること、さらにミッシングリンクの解消や各地域の広域的な連携に貢献等が認められることから、防災機能の評価結果も踏まえ当該事業の必要性・有効性は高いと判断できる。
以上より、本事業を平成24年度予算要求の新規事業箇所として要求する。